第50号　2025年５月1日発行

大田原通信

大田原に住んでいて「当たり前」なことが移住者にとっては「魅力」に感じられることも。この通信では、毎月１回大田原の隠れた魅力をお伝えします。

大田原市移住・定住交流サロン通信

地域のお店の一角を借りて出店する常盤さん

週末だけのコーヒー屋が生む
あたたかな笑顔

くまコーヒー

ときわ　たかし
常盤 隆さん

すべては、あの一杯からはじまった

常盤さんがコーヒーの道に踏み出したのは、一人のファンとして憧れのコーヒー屋を追いかけたことが始まりだった。お気に入りのコーヒーはイベントでしか飲めず、その味に惚れ込んだ常盤さんは、各地の出店を追いかけてその一杯を楽しんでいた。「自分でもこんなふうに淹れられたらいいな。」そう思ったことが、くまコーヒーの原点となった。その後、イベントで出会った地元の焙煎士から豆を仕入れるようになり、コーヒー屋としての活動がスタート。平日は学童でこどもたちと向き合いながら、週末はコーヒーを通じて地域の人とつながる時間を届けている。

店がなくても、届けられる温かさ

「1.5畳くらいのスペースがあれば、どこでもお店になるんですよ。」くまコーヒーは、店舗を持たず様々な場所で出店するスタイル。大田原市、那須塩原市、那須町を中心に、時には県外にも足を伸ばしている。場所はマルシェや店舗の空きスペースなどさまざま。「声をかけてもらえた場所が、自分のお店になるんです。」と笑う常盤さん。その場で豆を挽き、ドリップして提供する。お客様の目の前で一杯ずつ丁寧に淹れることが信条だ。器具にもこだわり、陶器のドリッパーなどを使用。「ちゃんとしている道具で、美味しくなれ、美味しくなれって、心を込めて淹れています。お客さんの要望に応じて、濃さの調節もしていますよ。」

地元の焙煎士から仕入れるコーヒー豆を使用

その一杯が、誰かの笑顔につながる

「『くまちゃんのコーヒーが飲みたかった』と言ってもらえることが、何よりの励みになる。ある日、スーパーで買い物中にくまコーヒーのTシャツを着ていたところ、レジの店員に『今度飲みに行きます』と声をかけられた。『周りの人が飲んでるのに、私だけ飲めてないんです』と言われたことがとても印象に残っている。」こどもからお年寄りまで、幅広い年代のお客さんが訪れる。1歳のこどもがミルクの泡立ちを楽しみに来たり、93歳のおばあちゃんがわざわざ飲みに来てくれたり。そんなふうに、誰かの記憶に残る一杯を届けられること。それが、常盤さんにとっての原動力になっている。

もこもこ泡のカフェオレ。1時間以上も泡が維持される濃密さが特徴

コーヒートニック（左）とレモンコーヒー（右）。レモンは国産を使用

皆んなが楽しめるように

「誰でも1つは飲めるメニューがあるようにしたい。」約50種類に及ぶメニューは、定番のドリップコーヒーに加え、蜂蜜や黒糖、オレンジジュースやカルピスを合わせた創作ドリンク、生クリームやチョコレートを使った季節限定メニューなど、そのバリエーションは多彩だ。こどもやコーヒーが苦手な人にも楽しんでもらえるよう、ミルク系や甘いドリンクも豊富に揃えている。コーヒートニックなど、常盤さん自身が試行錯誤しながら取り入れてきたドリンクも多い。

ホッとするひとときを、もっとたくさんの人へ

「いつかはお店を持ちたいけれど、今はこのスタイルが自分に合っているんです。店舗を持つことは理想だが、今は出店という形が人と出会うきっかけになっており、自分らしいやり方だと感じています。誰でもふらっと来て、ホッとできる場所をつくりたい。」常盤さんのコーヒーには、自然と笑顔を生み出す力がある。その一杯が地域の人々に、たくさんの笑顔を咲かせていくだろう。

くまコーヒー

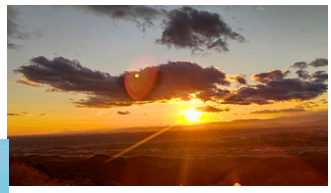
ALTEREGO.0_0.TURQUOISEBLUE

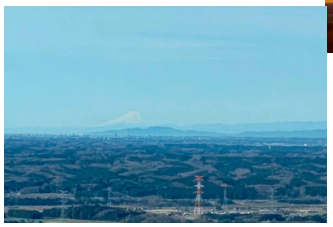
出店情報等はインスタグラムからご確認ください！

取材した方に聞きました

「あなたの好きな大田原」

御亭山（こてやさん）





ここの景色を見ながらコーヒーを飲む事が癒しになります！

お問合せ

大田原市の移住相談窓口

大田原市移住・定住交流サロン

大田原市本町1-3-1　大田原市役所A別館2階
Tel：0287-23-8794 (平日/9:00～17:00)
Mail：salon@ohtawara-ijyu.jp

ホームページ　Facebook　Instagram

大田原の暮らし、地域情報など発信中！

担当課：大田原市役所 総合政策部 政策推進課